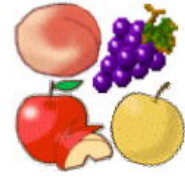




平成26年度 果樹情報 第1号

(平成26年4月2日)



福島県農林水産部農業振興課

1 気象概況 (3月下旬：果樹研究所)

3月の平均気温は5半旬が7.1℃で平年より1.1℃高く、6半旬が10.5℃で平年より3.8℃高く、この期間中の降水量は50.5mmで、平年の182%でした。

2 発育状況 (果樹研究所)

- (1) もも「あかつき」の発芽は3月26日で平年並、「ゆうぞら」は3月25日で平年より2日早い状況でした。
- (2) なし「豊水」の発芽は3月31日で平年並、「幸水」の発芽は、まだ確認されておりません。
- (3) りんご「つがる」の発芽は3月27日で平年並、「ふじ」は3月28日で平年より1日早い状況でした。

表1 発芽・展葉状況

樹種	品種	発芽			展葉		
		本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
もも	あかつき	3月26日	3月26日	3月20日	—	—	—
	ゆうぞら	3月25日	3月27日	3月19日	—	—	—
なし	幸水	未	4月3日	3月29日	未	4月17日	4月10日
	豊水	3月31日	3月31日	3月28日	未	4月12日	4月8日
りんご	つがる	3月27日	3月27日	3月20日	未	4月11日	4月6日
	ふじ	3月28日	3月29日	3月22日	未	4月10日	4月2日

注) 平年は1981～2010年の平均値。

3 開花予測 (果樹研究所)

今後の気温が平年並みに経過した場合の開花始めは、もも「あかつき」が4月14日、りんご「ふじ」が4月26日頃といずれも平年より1日早いと予測されます。

なお、この時期の生育は直前の気温の影響が大きいため、開花日は今後の気温の推移により大きく変動する可能性があるため注意が必要です。

表2 開花予測日

樹種	品種	開花始め		今後の気温経過と開花予測日		
		昨年	平年	平年並み	2℃高い	2℃低い
もも	あかつき	4月13日	4月15日	4月14日	4月11日	4月16日
りんご	ふじ	4月26日	4月27日	4月26日	4月22日	5月1日

注) 発育速度 (DVR) モデルによる発育予測。平年は1981～2010年の平均値。

東北地方1か月予報(仙台区気象台 平成26年3月27日発表)より

今後の気温の経過は、1週目（3月29日～4月4日）は高い確率が60%、2週目（4月5日～4月11日）は平年並みの確率が40%、3～4週目（4月12日～4月25日）は高い確率が40%となっています。

※ 気象庁では「天気予報」以外にも下記の情報も発表しておりますので、これらも参考にして管理作業や防霜対策を進めましょう。

○季節予報

1か月間や3か月間といった期間全体の大まかな天候を3つの階級で予報しています。

URL: <http://www.jma.go.jp/jp/longfcst/>

○最高・最低気温分布予想

一辺20kmの正方形のマス目にわけて、そのマス目の中の代表的な気温などを予想しており、翌日朝の最低気温の予想などが表示されます。

URL: http://www.data.jma.go.jp/fcd/yoho/data/kouon/t_maxmin.html

4 栽培上の留意点

(1) 防霜対策

生育が進むにつれて耐凍性が低下し凍霜害の危険性が高くなるので、気象情報に十分注意し、防霜対策を徹底しましょう。

事前対策として、防霜資材の手配と準備を徹底するとともに、地温の上昇を図るため、4月中旬以降をめぐり下草を5cm程度に刈り込みましょう（地際部まで刈ると放射性物質をまきあげるおそれあり）。また、空気や土壌が乾燥している場合は適宜かん水を実施し、土壌水分を確保しましょう（乾燥条件は気温の低下を助長するため）。

なお、降霜による被害が見られた場合は、被害状況を確認のうえ、人工受粉を徹底し結実確保を促しましょう。

(2) 結実確保対策

開花の時期は、直前の気温に大きく影響されるため、今後の気温の推移に十分注意し、訪花昆虫の導入、開やくの準備、人工受粉時の労力確保などを計画的に行いましょう。

5 病虫害防除上の留意点

(1) 病害

ア りんご腐らん病

伝染源となる枝腐らん、胴腐らんの発病部位は確実に削り取るかせん除し、塗布剤を塗りましょう。なお、伐採した被害枝幹及び削り取った病患部は園内に放置せず適切に処分するほか、展葉初期の防除も徹底しましょう。

イ ももせん孔細菌病（もも、ネクタリン）

前年は生育期間を通じて断続的に発病し、秋期の新梢葉での発病も多発したことから、開花直前の薬剤散布を徹底し、感染防止を図りましょう。また、春型枝病斑やこれに類似する疑わしい枝枯れ等は、見つけ次第徹底してせん除しましょう。

ウ なし黒星病

本病は前年の被害落葉や罹病芽（りん片）が伝染源となり、開花前から胞子を飛散させるため、発芽1週間後頃の防除を徹底し、初期感染の防止に努めましょう。

(2) 虫害

ア モモハモグリガ

今後の気温が平年並みに経過した場合、越冬世代成虫の防除適期は4月6半旬～5月1半旬頃と推定されます。なお、今後の気象経過により防除適期が変動することも考えられることから、落花10日後頃の防除を徹底しましょう。

イ リンゴハダニ

リンゴハダニのふ化盛期は4月5半旬頃と予想されます。越冬卵密度の高い園では、落花後以降の発生密度に十分注意し、要防除水準（1葉当り雌成虫1頭以上）に達した場合は、直ちに殺ダニ剤を散布しましょう。

ウ リンゴモンハマキ（もも、なし）

今後の気温が平年並みに経過した場合、越冬世代成虫の誘殺盛期は5月21日と予測されます。昨年、本種の発生が多かった園では、越冬世代の密度低下に努めましょう。本種は枯れ葉を枝等に貼り付けた中にマユを作り、若齢幼虫態で越冬するので（図1、図2）、摘らい作業などと併せて越冬マユを除去しましょう。越冬量の多いもも園では、開花10日前頃の防除を必ず実施しましょう。

なお、これらの防除に有機リン剤を使用する場合は、訪花昆虫に対する影響が大きいことから、散布時期が遅れることがないように十分に注意しましょう。

表3 果樹研究所における主要害虫に対する防除時期の推定
(演算方法は三角法・平成26年4月1日現在)

今後の気温予測	モモハモグリガ	リンゴハダニ	リンゴモンハマキ
	越冬世代 誘殺盛期	越冬卵 ふ化盛期	越冬世代 誘殺盛期
2℃高い	4月17日	4月18日	5月12日
平年並み	4月22日	4月23日	5月21日
2℃低い	4月27日	4月30日	6月1日

起算日：3月1日

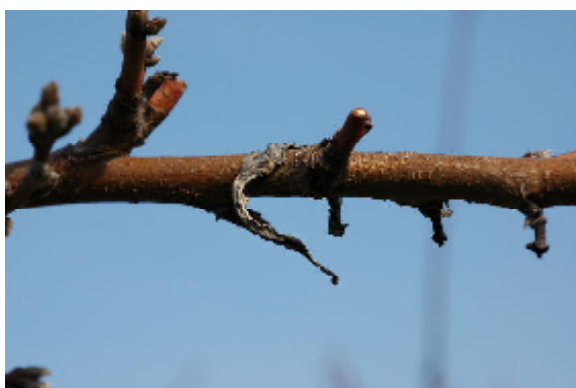


図1 リンゴコカクモンハマキ越冬場所
(枝に貼り付いた枯葉)



図2 リンゴコカクモンハマキ越冬虫

病虫害の発生予察情報・防除情報

病虫害防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

<http://www.pref.fukushima.jp/fappi/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 技術革新支援担当 TEL 024(521)7339

(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。)

URL：<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>

ふくしま新発売：以下のURLより最新の農林水産物モニタリング情報、イベント情報等をご覧ください。

URL：<http://www.new-fukushima.jp/>